

門沢橋小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第2回)

1. 日時 令和6年10月16日（水） 10:00～11:30
2. 場所 門沢橋小学校 家庭科室
3. 出席者 牛村忠雄委員、二見宏二委員、清水文生委員、大島千佳委員、
鈴木美由紀委員、武井友勝委員、大河原俊一委員、青木賢一委員、
市川由一委員、境景子委員、土谷政巳委員
欠席 1名

4. 会議の内容

(1) 委員長挨拶

牛村委員長：やっと涼しくなってきて、運動会も済んだ。地域の学校を大切にしていきたい。その中で門沢橋小学校の子どもたちのために頑張っていきたい。皆さんで意見を出し合いながら、門沢橋小学校をよりよくしていきたい。

(2) 報告事項

境 校長：今夏、体育館にエアコンが設置された。運動会に向けて体育館で練習することができた。5日（土）の運動会当日は天候が不安定だったため、表現、エール交換、高学年リレーを実施。競技種目については、天候と有馬中学校の体育祭との関係で、11日（金）の開催となった。天候不良等による延期日の設定については来年度の課題としていきたい。運動会も終わり、子どもたちの気持ちの切り替えも必要である。子どもたちが楽しみにしている稻刈りやもちつきもある。2学期の残りも子どもたちのために力を合わせていきたい。

① 全国学力学習状況調査の結果について（境委員）

境 校長：12月6日に海老名市HPにて公開。学校の状況については後日報告。
6年児童へ個別の結果（個票）については返却をしている。

※特徴的な部分のみ口頭にて情報共有

現在、校内で結果を分析中。子どもたちにどんな力が必要なのか、分析結果を今後の教育活動に生かしていきたい。

武井委員：「自己肯定感」についてはどのような質問の内容だったのか？

境 校長：例えば「将来の夢や目標をもっていますか」「学校に行くのが楽しいですか」「自分に良いところがあると思いますか」などがあった。

武井委員：今後の分析に期待する。

(3) 協議事項

①学校予算について（特色ある学校づくりに掛かる予算、学校運営事業費）

- 境 校長 : 次年度の予算について協議し、ご意見等をいただきたいところだが、まずは今年度後期予算についてお示しし、意見交換をさせていただく中で、次年度前期の予算編成につなげていきたい。
- 特色の一点目は全校稻作活動。ここに多くの予算を確保したいところ。
- 特色的二点目はインクルーシブ教育の推進。海老名市では「フルインクルーシブ」に取り組んでいる中で、本校のフルインクルーシブ教育を進めていきたい。
- 特色的三点目は I C T 活用の充実。
- 特色的四点目は、校内研究の充実。
- 大島委員 : オンライン授業は実際に行っているか？
- 境 校長 : 希望があれば実施している。けが等で登校できない場合には、授業の様子を配信するような対応も行っている。
- 武井委員 : G I G A 構想で一人一台端末を配付されているが、自治体によって対応がまちまちな実態があるようだが。
- 境 校長 : 海老名市では小中学校の間、公費負担により、市からの貸与という形で一人一台配付されている。ただ、小学校では iPad、中学校では Chromebook が貸与されるため、中学校進学時のギャップがある。
- 大島委員 : 毎日持つて帰るのか？
- 境 校長 : 学年、学級の実態に応じて持ち帰るようにしている。時々持ち帰らない日を設定して、担任が児童の iPad の所在等の確認、不適切な保存データ、使用履歴の有無の確認をしている。
- 武井委員 : 家庭のインターネット環境は？
- 境 校長 : 家庭の WiFi 環境調査を行っている。WiFi 環境が整っていない家庭に対しては、市からポケット WiFi を貸し出しすることも可能。学校においても、今夏に工事を行い WiFi 環境の改善を行っている。
- 清水委員 : 児童の iPad の接続は、直接ネットにつながるのか？
- 境 校長 : 学校では「学習系サーバー」につながるようになっている。
- 清水委員 : 学校でのセキュリティについては安全だということだ。安心した。

② フルインクルーシブ教育に向けての取り組み

- 牛村委員長 : 「フルインクルーシブ教育」については、何をやるのか、何から始めるのか、具体的に決まっているのか？
- 境 校長 : まだ決まっていない。昨日、教育長はじめ教育委員会と教職員との「対話の場」があった。教育長の考えを聞いたあとに、本校教職員からもいくつか質問をさせていただいた。「フルインクルーシブ教育」を進めていく上では、まだまださまざまな課題がある。

牛村委員長：「フルインクルーシブ教育」を進めるにあたっては、先生達の負担が増えるのではないか？

境 校長：環境面と人の配置は特によく考えなければならない。

※現在の学校の状況について情報共有

個別に支援が必要な児童は年々増加傾向にある。みんなが同じ場で共に学ぶ「フルインクルーシブ教育」を目指していくには、まずは私達教職員の意識も変えていかなければならない。また、市民、地域の方々、保護者の方々にも、理解していただかなければならない。

牛村委員長：「フルインクルーシブ教育」のイメージとしては、基本的にこれまで学校教育として行ってきたことばかり。あえてこれが打ち出される意味について考えさせられる。

二見委員：学校は大変になるのでは？

大島委員：「えびりーぶ」で「フルインクルーシブ教育」についての説明を聞いた。実態として1年生の教室を見ると、本当に、先生達は大変だと思う。支援級に在籍している子どもたちには支援員がつくが、通常級においては、担任一人で困難を抱えている子どもも含めて大人数の子どもたちに対して目を配りながら、学習を進めていかなければならない。担任一人では限界を超えている。高校では担任と副担任がついている。小学校もそれくらいの人材を配置できるとよい。「フルインクルーシブ教育」については、とても素敵なよいことだと思うが、それを実現するための環境整備が必要だ。今は、これからどういった準備が必要なのかを考える段階なのではないか。

二見委員：確かにそのとおり。

大河原委員：運動会を見ていると個別支援が必要な児童がいた。その児童本人は、運動会など楽しさを感じているのだろうか。

境 校長：同じことをやったとしても、気分によって、その子の様子は違う。その子が「楽しい」と思っている時には、目をキラキラさせて活動している。その子の感情に沿うような学習環境を整えられたら最高だと思う。担任もその子にじっくり向き合い、時間をかけて対応したいが、全体を見ていかなければならない場合もあり、ジレンマがある。運動会では、走ることは得意だが、踊ることは苦手という児童もいた。

清水委員：「フルインクルーシブ教育」とは、子どもたちみんなが共に地域の学校に通うということか。

境 校長：障がいの有無にかかわらず、また、発達において様々な特性のある児童や外国籍の児童など、学校生活や教育活動、友達との関わり合いの中で、みんなが成長していくよ。

大島委員：そういう中で、地域ボランティアや保護者ボランティアはありがたい。有償のボランティアとして学校に協力していくことも大事である。

- 牛村委員長**：今後も引き続き意見を交わしていきたい。
- 武井委員**：「フルインクルーシブ教育」に係る学校の課題等何が必要なのか、考えていくべき。
- 牛村委員長**：いろいろな環境にいる子ども、特性をもった子どもなど、みんなが、共に学ぶというもの。
- 大島委員**：具体的な取り組みはこれからというところである。
- 大河原委員**：教職員への研修は行われているのか？
- 境 校長**：行っている。昨日の「対話の場」も教職員の理解を深めるための海老名市教育委員会の取り組みの一つ。夏休み期間中には、県・市教育委員会から教職員に対して研修の場が設けられた。
- 牛村委員長**：これからは、どのような学びの場が子どもたちにとってより教育効果があるかを、「すべての子どもたち」と考えていくべきか。
- 大河原委員**：外国のどこかを参考にして、取り組むことになったのか？
- 境 校長**：「インクルーシブ教育」については日本もずっと以前から取り組んでいる。外国でも、これを当たり前のようにやっているところはたくさんある。人の配置や環境を整えるなどの対応は今後の課題であるが、できるところから取り組む。別室登校支援のスペースとしてサポートルームを整備。児童を取り巻く課題や学校としての取り組みや実績等、今後の支援方針等をまとめた個別の「支援シート」の作成。
- 青木委員**：先生達は大変ではないか。
- 大島委員**：これまで地域の学校に受け入れ態勢がなければ、地域外の学校に行くしかなかったが、「フルインクルーシブ教育」が推進されるとなったら態勢をさまざま整えなければならないということ。
- 牛村委員長**：今後も協議していきたい。

③ 地域と学校の連携

- 境 校長**：キャリア教育の推進を進める上で、地域の方のお力をお借りできないかと考えている。学年ごとに、求めるものは違うがいかがか。
- 牛村委員長**：具体的にはどのようなことが挙げられるか。
- 境 校長**：新幹線50周年記念事業として、倉見にある施設管理事業所の出張授業を依頼している。
- 牛村委員長**：農業、自治会、民生委員にもつながりがある。
- 鈴木委員**：3年生が地域のイチゴ農家さんに協力をいただいたりもしている。
- 境 校長**：フルインクルーシブ教育にも関係して、地域の方のお力や、施設の見学や利用をお願いしたいとも考えている。
- 牛村委員長**：支援級等移動のお手伝いをするなども考えられる。
- 鈴木委員**：稲作活動には地域の稲作協力員の方々のお力が不可欠である。

④ その他

- 市川委員 : 稲作活動について、PTAの協力は現状どうなっているのか？
- 鈴木委員 : 基本的には稲作協力員さんを中心に進めていただいている。田植えや稲刈り等では、PTA本部から保護者にボランティアを募集している。
- 境 校長 : 今年度は、稲刈り当日、有馬中学校の合唱祭リハーサルを6年生が見学に行かせていただくことになっている。6年生はハードなスケジュールとなるが、地域の方々や保護者の皆様のお力を借りながら取り組みたい。
- 牛村委員長 : 稲刈りの際、児童が鎌ですべて刈るのか。
- 土谷委員 : 一部コンバインを使用するが、大部分を児童が鎌で刈る。保護者ボランティア等に稲の受け取り、運搬、安全への配慮をお願いしている。
- 青木委員 : 昔は種もみから育てていた。「稻作をやろう」ということになって、50年くらい経っていることになるだろう。
- 境 校長 : 全校児童が参加する稲作活動は珍しい。大切にしていきたい。
- 牛村委員長 : もちつきには手伝いに来ていたが、今年の予定は？
- 境 校長 : 11月23日(土)に行う。
- 青木委員 : 午後2時からは渋谷神社の「七五三」行事があるが、もちつきに協力することも可能である。寿会、栄寿会への声かけがあれば協力したい。
- 牛村委員 : 稲刈りやもちつきのときなど、我々ができることもあるだろうから、必要であれば、各団体へ協力を要請してみてはいかがだろうか。

(4) その他

①第3回協議会に向けて

現時点では2月19日(水)を予定

※12日は民生委員の定例会あり

以上